

## インタビュー

# ブロードバンド・ユビキタス サービスの本格展開を 最先端技術で支援

ビジネスへの貢献を主軸に将来を見据えた最先端の研究を推進するNTTコムウェアの研究開発部。「心をつなぐ、社会をつなぐ」をスローガンに、NTTの新中期経営戦略「サービス創造グループを目指して」を踏まえ、ブロードバンド・ユビキタスサービスの本格展開に向けたR&D活動を展開する研究開発部の取組みについて、田中和彦部長にうかがった。

## 新中期経営戦略「サービス創造グループを目指して」が基軸に

—昨年の新年号では、ビジネスへの貢献を基軸にR&D活動を展開しているということでしたが、改めて、2009年の基本方針をお聞かせください。

**田中** 事業への貢献を目的に研究開発活動を展開してきましたが、この基本方針に変わりはありません。すなわち、①NTT研究所のR&D成果を事業会社様にパスする役割を担う、②弊社の提案力・SI力強化、③NTTの新サービスへの寄与（加入者増、ARPU増、トラフィック増加）、④ソフトウェアの品質向上・生産性向上を目的にUI（ユーザーインタフェース）、ユビキタス、NGNの3つの研究分野を中心にR&D活動を展開してきました。

2008年は、世界初となるFTTHによるNGNの商用サービスが開始されるなど、エポックメイキングの年でした。また、NTTは2008年5月に新中期経営戦略を発表し、今後5年間で展望したブロードバンド・

ユビキタスサービス展開方針やこれに伴う事業構造の改革方針を打ち出しました。新中期経営戦略では、NGN・3Gのネットワークサービスの追加・拡充を図りアプリケーションプロバイダとの連携によるサービス創造を推進するとともに、2011年3月期を目処に固定／移動ともにフルIPのネットワーク基盤を構築し、サービスの融合を本格的に展開することで、レガシー系中心からIP系およびソリューション・新分野等を中心とする事業構造に改革し、2011年度には光サービス（光アクセス+NGN・地域IP網）の単年度黒字化、2013年3月期には連結営業利益1.3兆円を目指しています。

私どもは、NTTグループ内の主要SIerであるNTTコムウェアの研究開発部門として、NTTの新中期経営戦略「サービス創造グループを目指して～ブロードバンド・ユビキタスサービスの本格展開～」を基軸にR&D活動を展開しており、2008年はその意味ではNGNを支える要素技術のR&Dに特に注力したと言



NTTコムウェア(株)  
基盤技術本部 研究開発部長  
田中 和彦氏

えます。2009年もNGNそのものとその上で提供されるサービスを中心に、サービス創造グループを目指した取組みを加速していきたいと考えています。

## NWサービス提供基盤とオペレーション業務支援の両面を支援

—具体的なNGNの要素技術のR&D成果の詳細は、後続の各論頁でご紹介しますが、取組みのポイントをお聞かせください。

**田中** NGNの要素技術としては、ユーザーやxSPが安心・安全なNGNを介したサービスをより簡単・便利に、より快適に利用できるようにネットワークサービス提供基盤と、より簡単・シンプルにネットワークサービスの保守・運用が行えるオペレーション業務支援の両面から取り組んでいます。NGNの最大の特長は、サービス品質（QoS）、高セキュリティ、高信頼性にあり、こういった現在のインターネットにはない特長をユーザーにわかりやす

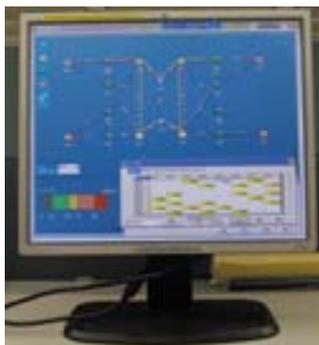
い形で示していくことが重要です。トラヒックエンジニアリング、ネットワーク設計シミュレーション技術、テストベッドでの再現・確認技術に取り組むとともに、実際の回線に関する測定・評価技術にも取り組んでいます。

私どもは、日本の通信インフラをシステム面で支えることで培った高い技術力と蓄積されたノウハウを基に、後続頁で紹介するようなネットワーク構築・運用におけるプロビジョニング支援を目的としたシミュレーションプラットフォーム技術に加え、Computed Tomographyとよく似ていますが、エッジノードからスキャンしてNGNインフラのどこに問題が発生しているかを診断するような技術にも取り組んでいます。

### 3D表示による高臨場感コラボレーションの実現にも注力

— NGNのキラーアプリケーションになり得る3D表示による次世代映像通信技術にも積極的に取り組んでいますね。

**田中** 臨場感3Dテレビゲームや3Dテレビ電話、デジタルサイネージ（電子看板）の3D表示など、映像メディアとしての3Dは帯域保証された高速セキュアなNGNの新サービス創出の原動力となり得ます。将来のデジタルホームを意識し、私どもでは、高臨場感のコラボレーションが行える3D表示の仕組みにも取り



NTT コムウェアならではの独自先端技術のデモ風景  
(左：オーバーレイネットワーク用設計シミュレーション技術、右：実写映像の3Dリアルタイム表示技術)

組んでいます。3Dは紙の資料を読んでもただ理解されません。従いまして、各種イベントに参加して3Dコンテンツを実際に御覧いただき、多くの皆様からのご意見・ご感想を伺うことが重要と考えています。

— 3Dは映像メディアとして相当インパクトがあると思いますが、お客様の反応はいかがですか。

**田中** 「IMC TOKYO 2008」のような専門家が集まるイベントでは、裸眼で立体感あふれる3D映像が見られる私どもの技術に対する関心は高いですね。今後さらに技術的な改良を進めるとともに、各分野の皆様からの反応をさらに調査したいと思います。

### 人間を快適に作業効率を向上させる人間系に関するR&Dに着目

— 研究成果の出口という観点で、2008年度の主要重点テーマの状況はいかがですか。

**田中** 2008年度5つの重点R&Dテーマを掲げましたが、マルチモーダル橋梁点検支援システムのように事業部門に技術移管し販売中のものも

ありますし、TangibleリモートケアやDepth Mapped 3Dのように多数のお問い合わせをいただいております。現在もR&D活動を継続中のもの、そしてTangible-RFIDのようにまだ商品として提供する段階に至っていないもの、ハプティック技術を組み合わせたTangible 3Dのようにやや先端的過ぎたテーマもあります。

— 最後に、今後のR&D活動に対する抱負をお聞かせください。

**田中** 人間系に関するR&D活動に注力していきたいと考えています。ホライカラー、ブルーカラーを含め作業の効率化に貢献したいという想いが強いですね。弊社はシステムを提供することで業務の効率化・生産性向上に貢献していますが、人間の行動を把握・分析する技術を活用して、システムと人間との連携性を向上させ、快適に作業効率を向上できるような技術に取り組みたいと考えています。いずれはセンサやネットワークと結びついてNGNの応用につながると考えています。

— 本日は有難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)